

平成 26 年度 事業計画書



いさだキッズクリスマス会



団塊世代の地域デビュー講座



ふれあい交流ワークキャンプ



マスコットキャラクター「ふくぴー」

社会福祉法人磐田市社会福祉協議会

= 目 次 =

【基本目標】【基本方針】【重点目標】	………… 1
【平成26年度の注目事業】	………… 2
【主要実施項目】	
(1) 地域課題を新たな事業展開につなげる仕組みづくり	………… 4
(2) 支え合い意識を高める地域福祉活動の推進と人材育成	………… 5
(3) 社会資源との協働によるボランティア活動の活性化	………… 7
(4) 地域包括ケア体制を見据えた在宅福祉サービスの展開	………… 8
(5) 社会情勢等の変化に柔軟に対応できる組織づくり	…………10
【関連する諸計画と実施期間】	…………12

平成26年度社協組織体制

(単位：人)

役員等	理事		12				
	監事		2				
	評議員		33				
事務局	部署等		正規	嘱託	臨時	計	
	事務局長		0	1	0	1	
	地域福祉課	本所	総務グループ	4	0	1	5
			地域福祉グループ	6	0	1	7
			生活支援グループ	2	0	1	3
		支所	福田	1	1	0	2
			竜洋	1	0	1	2
			豊田	1	1	0	2
			豊岡	1	1	0	2
	他	竜洋老人福祉センター	0	0	2	2	
		市へ派遣	1	0	0	1	
	在宅福祉課	ケアサービス事業所		10	5	1	16
		福田地域包括支援センター		2	2	0	4
		南部地域包括支援センター		3	0	1	4
	計		32	11	8	51	
() 内は昨年度		(29)	(11)	(6)	(46)		

【基本目標】

やさしさ！ふれあい！安心を！ ともに支え合う地域福祉社会の実現

【基本方針】

近年の地域における福祉課題は、少子高齢化や核家族化に加え、ライフスタイルや価値観の変化により潜在化、複雑化してきています。

また、平成27年4月に予定されている介護保険制度の改正は、地域住民の自立生活を支える社会資源として、地域福祉活動やボランティア活動も重要な役割を担うことが想定されます。そのため、地域で福祉活動を担う人材及び組織の育成と更なる充実が求められています。

このような社会情勢の中で、社協には、生活困窮や社会的孤立等の新たな課題に対し、既存の枠組みにとらわれない積極的なアプローチが求められています。地区社協や各種専門機関等とより密接に連携し、社協の特色を活かしたコミュニティソーシャルワークの取り組みを積極的に進めていく必要があります。

平成26年度は、従来の地域福祉活動推進事業から一步踏み込み、福祉課題を丁寧に把握・分析し、具体的な取組みに結び付けていく事業展開と、柔軟に対応できる組織体制づくりを実施していきます。

【重点目標】

- (1) 地域課題を新たな事業展開につなげる仕組みづくり
- (2) 支え合い意識を高める地域福祉活動の推進と人材育成
- (3) 社会資源との協働によるボランティア活動の活性化
- (4) 地域包括ケア体制を見据えた在宅福祉サービスの展開
- (5) 社会情勢等の変化に柔軟に対応できる組織づくり

【平成26年度の注目事業】

平成26年度に特に力を入れる事業の概要と社協が取り組む意義について紹介します。

「住民ニーズの掘り起しと実践」の仕組みづくり

社協の使命は、公的サービスの狭間にあるニーズに対応し、柔軟で先駆的なサービスを提供することです。様々な住民ニーズを発見し、社協らしい地域福祉力を活かしたサービスを常に開発して行く姿勢が求められます。

具体的な取り組みとして*アウトリーチによる親身な聴き取り、地域福祉懇談会や福祉団体懇談会から出た意見の分析、地域住民から寄せられる様々な声からニーズ発見を実践していきます。

これらのニーズを基に、地区社協や地域包括支援センターなど関係機関とのネットワーク会議や、社協職員による事業化検討会を進め、「住民ニーズの掘り起しと実践」の仕組みを確立していきます。



「講座修了者の活動支援プログラム」の実行

社協では人材育成を目的に、様々な講座を開催しています。講座の修了者を計画的、系統的に地域福祉活動に結びつけることで、人材を確保し継続的な地域福祉活動を実現することができます。

具体的な取り組みとして、講座の趣旨とフォローアップ方針の明確化や、地域福祉活動への修了者参画の取り次ぎ、地区社協単位の講座修了者連絡会の仕掛けを実践していきます。

地域福祉活動の後継者の養成は社協にとって急務かつ重要であり、「講座修了者の活動支援プログラム」を着実に実行していきます。



キーパーソン養成講座

*アウトリーチ…職員が直接出向いて、住民の声を収集すること

「ボランティアセンター」の機能強化

安心して暮らせるまちづくりに向け、ボランティア活動による支え合いの必要性が一層高まっています。

活動希望者と福祉施設や団体の中間に立ち、関係づくりを行うボランティアコーディネーターが活発に行えるよう、ニーズ集約の仕組みを整えていきます。

具体的な取組みとして、センター機能の積極的な周知や相談受付態勢の整備、ニーズ集約システムの構築などにより機能強化を図ります。

また、ボランティア連絡協議会と連携しニーズの対応に協力してもらうよう働きかけをしていきます。



施設ボランティア担当者会連絡会

精神障害者サロン支援と関係機関とのネットワークの強化

こころの不調は決して他人事ではなく、誰にでも起こりうるものです。しかし、その一方で外見からは判断しにくく、理解されにくい問題でもあります。精神障害者サロンは、ボランティアが中心となり当事者の居場所や仲間づくりの場、家族の息抜きの場として、現在市内3ヶ所で実施しています。

ボランティア研修会を実施し、ボランティアの育成と資質向上を図り、サロンの充実や拡充へとつなげていきます。

また関係機関（相談機関、福祉施設、医療機関）とのネットワークを強化し、連携や情報交換をしながら、サロン運営や当事者支援ができるよう努めていきます。



3サロン合同クリスマス交流会

【主要実施項目】

(1) 地域課題を新たな事業展開につなげる仕組みづくり

※白抜き数字は新規事業

実施項目	具体的取組み方法等
1) 広報・広聴の機能強化	①社協だよりの年4回（6月、9月、12月、3月）発行と内容の充実
	②社協キャラクター「ふくびー」及び関連グッズの有効活用
	③ホームページ充実と最新情報の更新 目標：アクセス6,500件以上
	④社会福祉大会・地域福祉フォーラムの開催
	⑤地域福祉啓発作品コンクールの実施
2) 住民ニーズの掘り起こしと実践	①ニーズ把握のための地域福祉懇談会（地区社協単位）開催
	②ニーズ把握のためのアンケート調査実施
	③障害者団体等を対象とした福祉懇談会の開催
	④全職員態勢によるニーズ集約システムの構築と事業化検討会議開催
	⑤新規人材養成講座の開催
	⑥第3次地域福祉活動計画（H28～H32）策定に向けての準備
3) 福祉の心の醸成	①福祉の心育成事業の充実と活用促進
	②地域、企業、団体への福祉出前講座の活用促進及び実施
	③団塊世代を対象とした地域福祉活動者の養成と活動促進



福祉出前講座（車いす体験）



社会福祉大会・地域福祉フォーラム

(2) 支え合い意識を高める地域福祉活動の推進と人材育成

実施項目	具体的取組み方法等
1) 地区社協の活性化に向けた基盤強化と地区全体の運営体制づくり	<p>①地区社協活動拠点の確保・整備と事務局設置支援、事務局機能の強化</p> <p>②地区社協、福祉活動団体の活動支援と財政支援強化</p> <p>③「地域福祉力向上プログラム」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域せいかつ応援倶楽部の普及促進 ・地域せいかつ応援倶楽部の運営支援 ・「地域支え合い講演会」の開催(8月) ・地区別講座受講者名簿の活用促進 ・自治会長、民生委員、福祉委員等のOBの人材活用促進 ・地区社協活動の趣旨に賛同する住民が参画できる地区社協組織への改編 <p>④地区社協の人材を養成する講座等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっとな地域づくり仕掛け人連絡会(7月) ・地区社協に役立つ人材養成講座の開催 ・地区社協が実施する人材養成講座、出前講座の検討 ・地区社協実施の福祉レクリエーション講座の支援 <p>⑤職員の地区担当制の強化による地域福祉の推進</p> <p>⑥活動事例紹介DVD(地区社協用)による活動支援</p> <p>⑦地区社協連絡協議会活動の充実(視察研修含む年4回)</p> <p>⑧介護保険法の改正を見据えた地区社協事業の支援</p>
2) 地域見守り支援態勢の充実	<p>①福祉委員会連絡協議会活動の充実(視察研修含む年3回)</p> <p>②民生委員と福祉委員の情報共有と連携態勢づくり推進</p> <p>③新任福祉委員研修会の開催(6月)</p> <p>④福祉委員制度の役割と機能強化に向けての現状調査・検討</p> <p>⑤活動事例紹介DVD(福祉委員用)による制度の理解促進と活動支援</p>

実施項目	具体的取組み方法等
3) 人材養成講座と活動 継続のための研修会 等の開催	❶ 地区社協活動に役立つ人材養成講座の開催
	❷ 高齢者サロンボランティア養成講座の開催
	❸ ジュニアボランティア養成講座の開催（7～8月）
	❹ 団塊世代の地域デビュー講座の開催（12～1月）
	❺ 福祉教育サポーター連絡会の開催と活動内容の充実
	❻ 子育て支援ボランティア研修会と交流会の開催
	❼ こころに寄り添うボランティア養成講座フォローアップ編の開催
	❽ こころに寄り添うボランティアの研修会開催とネットワークづくり
	❾ 傾聴ボランティア連絡会の開催（年2回）
	❿ 一芸・語りべボランティア登録促進と制度の活用促進
	⓫ 給食ボランティア研修会の開催
4) 福祉人材の具体的活動先 の確保とコーディネート	① 「講座修了者の活動支援プログラム」の実行
	② ほっとな地域づくり仕掛け人の活用促進と連絡会開催
	③ 地区社協単位の講座修了者連絡会の開催促進
	④ 福祉施設ボランティア担当者連絡会の開催（5月）
	⑤ 講座修了者のグループ化及び定例会開催支援



ほっとな地域づくり仕掛け人連絡会



団塊世代の地域デビュー講座

(3) 社会資源との協働によるボランティア活動の活性化

実施項目	具体的取組み方法等
1) ボランティアセンターの機能強化	①ボランティアセンターの啓発と利用促進 目標：利用件数 1,100 件以上 ②ボランティア相談の充実とコーディネート力の向上 目標：130 件以上 ③ボランティアニーズを集約する仕組みの機能強化 ④ボランティア活動の情報発信力の強化 ⑤ボランティア希望相談者名簿の有効活用 ⑥労働者組織や大学、専門学校等との事業連携強化 ⑦市相談機関との相談事業連携強化
2) ボランティア活動の場の確保と活動支援	①ボランティア活動活性化計画の推進 ②サロン（高齢者、子育て、障害者）の充実による活動の場の確保 ③ふれあい広場の開催（市内5か所） ④中・高校生、大学・専門学校生、一般ボランティアの活動の場の確保（ふれあい広場、募金活動、福祉施設、福祉団体等） ⑤おもちゃ図書館の充実と周知 ⑥福祉お助け用品の貸出 ⑦ボランティア活動保険加入促進
3) ボランティア連絡協議会の活動支援と自立支援	①組織基盤の強化と自立運営の支援 ②団体間の連携づくりのためのネットワーク活動の促進 ③未加入団体の加入促進 ④ボランティア連絡協議会のブログ更新（3回/月） ⑤先進地視察の実施（7月） ⑥NPO法人とボランティア連絡協議会の交流会開催（12月）



おもちゃ図書館



NPO法人連とボラ連の交流会

(4) 地域包括ケア体制を見据えた在宅福祉サービスの展開

実施項目	具体的取組み方法等
1) 利用しやすい在宅福祉サービスの充実	①成年後見事業（法人後見）の実施 ②日常生活自立支援事業の充実 ③せいかつ応援倶楽部の充実 目標：利用件数 2,500 件以上 ④地域せいかつ応援倶楽部事業の実施推進と充実 ⑤福祉車両及びマイクロバス貸出事業の充実 ⑥車いす貸出事業の充実 ⑦福祉有償運送事業の再検討
2) 子育て支援事業の充実と遊び場の提供	①ぐりとぐらの広場及びいさだキッズの開催 ②子育てサロンの充実と子育て支援員の活用促進 ③子育て支援関係者との連携（であいのひろば協力） ④児童遊び場整備事業の実施
3) 障害児者のサポート体制整備と余暇活動の支援	①精神障害者サロン（スイトピー、ゆずりはの会、よりみち）の開催 ②精神障害者支援のための関係機関とのネットワークづくり ③ふれあい交流ワークキャンプ事業の実施（全3回） ④精神障害者サロン増設に向けたボランティアの育成
4) 地域包括ケア体制の構築	①市社協と市内地域包括支援センターとの連携強化 ②地域包括ケア体制構築に向けた情報収集と関係機関との連携 ③介護保険法の改正を見据えた地域包括ケア体制の検討 ④生活困窮者の相談支援体制の構築



ぐりとぐらの広場



豊岡地区高齢者の集い
(中学生の交流活動参加)

実施項目	具体的取組み方法等
5) 介護予防事業の充実と 高齢者生きがい支援	①高齢者サロンの活性化とボランティアの育成
	②シニアクラブ活動の支援強化
	③「シニアクラブ元気はつらつ計画」の策定と実施
	④高齢者サロンへの登録保健師・看護師の派遣
	⑤高齢者サロン連絡会・地区別交流会の支援
	⑥高齢者サロンとシニアクラブの連携促進
	⑦活動事例紹介DVD（高齢者サロン用）による活動支援と設置促進
	⑧竜洋老人福祉センターの適正な管理運営
6) 介護保険事業、障害者 総合支援事業の充実	①訪問介護事業、居宅介護支援事業の経営強化とサービス向上
	②障害者総合支援事業の経営強化とサービス向上
7) 相談機能の強化	①心配ごと相談事業の実施
	②結婚相談事業の実施
	③小口福祉資金、県社協生活福祉資金の資金貸付相談事業の実施
8) 地域包括支援センター の運営	①福田・南部地域包括支援センターの受託運営（南部包括は新規受託）
	②介護に関する総合相談事業及び予防介護事業の充実
	③地域ケア会議の開催
	④家族介護者のつどい開催
	⑤関係機関・団体との連携強化



老人クラブ連合会輪投げ大会



高齢者サロン連絡会



南部地域包括支援センター

磐田市南部地域包括支援センター

【開所時間】午前8時30分～午後5時15分

【定休日】土日祝日及び年末年始（12/29～1/3）

【所在地・連絡先】〒438-0051

磐田市上大之郷51番地 磐田市急患センター内

TEL (0538) 36-8900・FAX (0538) 36-8001

(5) 社会情勢等の変化に柔軟に対応できる組織づくり

実施項目	具体的取組み方法等
1) 社会情勢の変化に対応できる組織基盤づくり	①理事会、評議員会、三役会議等の適正な運営
	②役員及び評議員の研修充実（構成団体活動紹介）
	③専門部会・委員会組織の見直しと適正な運営
	④事務事業調整会議の適正な運営（月1回）
	⑤事務事業評価制度の適正な運用 目標:3事業以上見直し
	⑥第2次地域福祉活動計画に基づく地域福祉の推進
	⑦第2次経営改善計画に基づく組織の健全経営
	⑧中期財政計画、第2次定員適正化計画に基づく経営基盤強化
	⑨組織機構改革による組織の効率化と強化
2) 財政基盤の安定と強化	①自主財源率の向上 目標:54%以上
	②会費収入の確保 目標:26,000千円以上
	③賛助会員の拡大 目標:新規協力者20件以上(個人を含む)
	④共同募金収入の確保 目標:赤い羽根14,500千円、歳末11,000千円
	⑤介護保険事業の経営強化 目標:収支差額17,000千円以上
	⑥資金の効率的運用 目標:受取利息配当金12,000千円以上
	⑦中期財政計画に基づく財政基盤強化
3) 関係機関・団体との連携強化	①地域福祉推進団体（自治会、地区社協、福祉委員会等）との連携強化
	②行政等専門機関（行政、市民児協、相談機関等）との連携強化
	③福祉関係団体（障害者団体、家族会等）、福祉施設等との連携強化



赤い羽根共同募金街頭募金活動
(ヤマハスタジアム)



まちづくりいわた
チャリティーオークション売上金寄付

実施項目	具体的取組み方法等
4) 防災体制の整備と強化	①災害ボランティア支援本部運営訓練の実施（9月、12月）
	②行政（県、市）及び関係機関・団体との連携強化
	③災害ボランティア活動資機材の充実
	④災害ボランティアコーディネーター研修会の開催（5月～4回）
	⑤災害ボランティアコーディネーターの実践力の強化
	⑥県ボランティア協会主催の図上訓練への参加
	⑦近隣社協災害担当者会議への参加
5) 職員の適正な人事管理と内部牽制体制の強化	①人事考課制度の適正な運用
	②内部監査の適正な実施
	③平成27年度新会計基準移行に向けた体制整備
6) 職員の資質向上及び事務事業の効率化	①職員研修中期計画の見直し及び年次計画に基づく職員研修の充実
	②支所2人態勢に伴う事務事業の分担見直しと効率化
	③新たな人事・給与・会計システム導入による事務の効率化
	④地域の福祉課題を具体的取組みに結び付けるシステムの構築
	⑤職員のニーズキャッチ能力の向上及びコミュニティソーシャルワークの組織的实施
	⑥新規事業・事務改善提案制度の実施



災害ボラ支援本部立上げ訓練



災害ボラ支援本部立上げ訓練

【関連する諸計画と実施期間】

No.	計 画 名	実施期間	H26	H27	H28	H29	H30
1	第2次磐田市地域福祉計画	H23～27					
2	第2次磐田市地域福祉活動計画	H23～27					
3	第2次経営改善計画	H23～27					
4	第2次組織機構改革要綱	H25・26					
5	中期財政計画	H24～28					
6	第2次定員適正化計画	H24～28					
7	災害対応マニュアル	H19～		毎年度見直し			
8	災害時の事業継続計画	H25～					
9	災害ボランティア支援本部運営マニュアル	H19～					
10	地域福祉力向上プログラム（改訂版）	H25～					
11	地区社協活動に関する指針	H25～					
12	講座修了者活動支援プログラム	H24～					
13	ボランティア活動活性化計画	H24～					
14	ボランティアセンター機能強化方針	H25～					
15	平成26年度事業計画	H26					
16	平成26年度重点課題	H26					
17	社協の見える化促進計画	H26～27					
18	シニアクラブ元気はつらつ計画	H26～27					